

第2学年 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

2年3組 男子23名 女子17名 計40名

指導者 中林 竜也

【授業】13:30～14:20 会場 2年3組（3階）

【協議会】14:30～15:20 会場 第1研修室（1階）

1 題材名 自立した消費者としての消費行動の工夫（C（2）イ）

2 題材について

（1）題材設定の趣旨

本題材では、持続可能な社会の構築に向けて考え、工夫する活動を通して、消費生活・環境に関する知識及び技能を身に付け、これからの社会を展望して、身近な消費生活と環境についての課題を解決する力を養い、身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

「自立した消費者」になるために必要な要素は、文部科学省(2021)によると、「被害に遭わない消費者であること」「合理的意思決定ができる消費者であること」「社会の一員として、よりよい市場とよりよい社会の発展のために積極的に関与すること」としている。

「自立した消費者」としての資質を身に付けさせるためには、中村ら(2024)は、『批判的思考力』を育むことが必要だとしている。一方で、三宅ら(2024)は、「批判的思考はこれまで意思決定における中心的な能力と捉えられてきた一方、その多様な側面のうち多面的な判断が重視され、他の側面、とくに論理的思考は見過ごされてきたことが明らかになった」としている。

以上のことから、身の回りにあふれた生活資源を取捨選択させ、批判的思考、論理的思考を活用・発揮しながら、自分の意思で購入を検討させることを本題材では目標としたい。

本題材では、消費行動の一例として、衣服について考えさせるが、福田(2025)は、「小中高校家庭科の調査より、衣生活の健康で快適な自立を中心とした内容は、循環型社会構築の一員としての知識や意識に係る事項が多く認められた。一方リメイクが強調されているが、手入れによる長寿命化の視点が欠けていることが明らかになった。」としている。機能を重視して購入するという「健康・快適」の見方・考え方と長く使えるものを購入するという「持続可能な社会の構築」の見方・考え方を対立させることで、自立した消費者を目指させたいと考えた。

（2）生徒の実態

生徒は1学年時に、衣生活と環境との関連について社会科と家庭科において学習している。ラナプラザ崩壊事故のように、衣服の生産のために低賃金で大量の労働者が働いていたことを受けて、服を選択する際、費用と環境のどちらを重視するかというテーマで討論を行った。その学習では歴史的な背景や衣服の特性については考えているものの、自分の生活に落とし込んで考えていない生徒が多く見られた。そこで、事前に消費生活について学習させたり、富山県の大学生の実態と照らし合わせさせたりすることで自立した消費者を目指せるようにしたいと考え、題材構成を考えた。

情報を収集する活動は意欲的に行うものの、安易に生成AIに頼ってしまったり、情報のソースを確認しないまま説明の根拠としてしまったりする場合がある。自ら情報を得たい、と考えられるような学習課題や、資料を提示し、自分の手で情報を収集した上で足りない部分を学習用端末で補うような活動を行うことで、自立した消費者を目指す足掛かりとしたい。

（3）指導の構え

① 課題設定

衣服の選択が企業への「投票行動」となることを意識させられるような課題設定としたい。現代社会では、多機能かつ低価格が求められている。そこに一石を投じるような資料提示を行い、

その資料の内容を補完できるように自ら調べたり、友達と話し合ったりすることで、機能を重視して購入するという「健康・快適」の見方・考え方と長く使えるものを購入するという「持続可能な社会の構築」の見方・考え方を対立させることで自立した消費者を目指せると考える。

② 学習過程

本題材は衣服の学習ではなく、「消費生活と環境」の学習である。自分のニーズにこだわらないためにも、消費者の権利と責任を事前に学んでおくことが、物資・サービスの購入から廃棄までの自分や家族の消費行動が環境への負荷を軽減させたり、企業への働きかけとなって商品の改善につながったりすることを理解するためには必要である。また、消費者の行動が社会に影響を与えていることを自覚することができる。「健康・快適」に傾きがちな消費行動に、「持続可能な社会の構築」の視点を与えられるように指導をしていくことで、限りある資源を有効に利用できる生徒を育成したい。

3 研究主題・副題との関連

本題材に示す「自立した消費者」を目指すために学習できる生徒を「自立した学習者」とした。価格や機能にこだわってしまい、環境への視点がもてない生徒に、「持続可能な社会の構築」の見方・考え方を身に付けさせるために、昨年度学習した衣生活の社会問題の内容と、現代社会の人々の消費行動のデータを踏まえさせることで、「大学生の私服は 20 着で足りるのだろうか」という課題解決を目指す。データを基にさらに追究させたり、意見交換させあったりすることで、「自立した学習者」像に迫ることができると思う。

本題材では、「大学生の私服は 20 着で足りるのだろうか」という課題を追究しながら、機能を重視して購入するという「健康・快適」の見方・考え方と長く使えるものを購入するという「持続可能な社会の構築」の見方・考え方を対立させることで「自立した消費者」を目指させたい。人によってモノへの価値観は様々であるため、個人でデータを分析させたり、小グループで意見交換をさせあったりすることで、消費生活の多様な考えに触れることができる。

4 題材の目標

- 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解することができる。
(知識及び技能)
- ◎ 自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- よりよい社会の実現に向けて、自分や家族の消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

5 全体計画（全 4 時間）

- 第 1 時 消費者の基本的な権利と責任について理解させる。
- 第 2 時 大学生が準備した消費生活の資料について、どのような権利と責任が関わっているのかを参考にしながら、分析させる。
- 第 3 時 私服の購入が環境や社会に及ぼす影響について、考え、話し合わせる。(本時)
- 第 4 時 自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、将来の生活に生かせるようにする。

第3時のルーブリックは以下の通りである。

	「深い学び」のルーブリック
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容と関連付けて、考察したことを論理的に表現している。 「健康・快適」と「持続可能な社会の構築」の「見方・考え方」を対立させながら、考察したことを論理的に表現している。
A	評価規準をすべて満たしているのに加え、他の生徒の意見や発表を取り入れながら、自分の学習を振り返り、考察している。
B	評価規準のすべてを満たしている。
C	評価規準の一部のみ満たしている。

第4時のルーブリックは以下の通りである。

	「深い学び」のルーブリック
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習や、交流から得たことを活用し、自身の生活を改善、実践しようとしている。 自分の消費行動の課題を解決するために、評価・改善を繰り返しながら、主体的に取り組もうとしている。
A	評価規準をすべて満たしているのに加え、複数の視点から自身の生活を、将来を展望しながら改善・実践しようとしている。
B	評価規準のすべてを満たしている。
C	評価規準の一部のみ満たしている。

6 本時の学習（全3／4時間）

（1）指導目標

大学生の消費行動についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現できるようにする。

（2）展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
1 本時の課題を確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> 大学生の私服は20着で足りるのだろうか </div>	
2 前時で提示された情報を整理し、自分の意見をもつ。 【20着で妥当派】 <ul style="list-style-type: none"> 情報の理論に納得がいく。 ずっと物価が高いので、服を買うお金があれば、別のことに回したいのではないか。 【20着では足りない派】 <ul style="list-style-type: none"> 1年で20着は足りなさすぎる。自己表現や洗濯がしづらいのではないか。 中学生の今でも、20着は超えているので、大学生になっても超えると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で整理してもよいし、他者と共有して整理してもよいと指示し、整理の仕方に自由度をもたせる。

<ul style="list-style-type: none"> ・安いものでも、長く使えば環境問題も防げるのではないか。 <p>【20 着を下回ってもよい派】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーツや運動着を着れば、多くの服を着ずに済むのではないか。 ・環境問題のことを考えると、少しの服で暮らす方が良いのではないか。 <p>3 情報をもとに意見交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20 着で足りないと思う。今でも 20 枚以上衣服を所持しているし、それらを全て使っている。一部がなくなるとコーディネートが楽しくなくなるため、<u>快適に生活</u>ができない。 ・20 着で足りると思う。他国の労働環境の実態を考えると、<u>持続可能な社会を構築</u>するためには、一人一人が所持する衣服の量を減らす必要があると思う。 <p>4 大学生にとって、何着が適正か検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40 着。春夏秋冬で 10 枚ずつだと快適なコーディネートができる。 ・15 着。大学を私服ではなく、スーツのような服を着ることで、枚数をさらに削減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「見方・考え方」でジャンル分けをし、振り返りやすくなるように板書整理をする。 <div data-bbox="783 938 1388 1171" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>学習評価の観点</p> <p>自分の消費行動についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。【思考・判断・表現】（発言・ワークシート）</p> </div>
--	--

7 授業観察の視点

- ・消費行動を考える上で、衣服選択について取り上げたことは有効であったか。
- ・情報を整理するために、教師側でグループを作らず、個人で進めたり、目的別で話し合わせたことは有効であったか。

〔引用〕

- ・中村恵美子・小原絵里・青木香保里・原田悦子(2024)．「これからの消費生活を考える中学校技術・家庭科の実践―批判的思考力を育む授業開発「成年まであと5年」―」．愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第9号，（p.117～123）
- ・福田典子(2025)．「衣生活学習を活用した循環型社会への気づきを高める教育の課題と可能性」．日本家庭科教育学会 北陸地区会 第42回大会研究発表より
- ・三宅元子・飯尾健(2024)．「消費者教育における論理的思考の育成に向けた課題と提言―批判的思考に関する課題からの一考察―」．名古屋女子大学紀要70（人・社）p. 57～70
- ・文部科学省(2021)．「これならできる！消費者教育 自立した消費者を育成するための主体的な学び ヒント！消費者教育 &事例集」

〔主な参考文献〕

- ・鈴木明子・杉山久仁子(2022)編書，「評価事例&評価規準例が満載！ 新3観点の学習評価完全ガイドブック」．明治図書

- ・ 筒井恭子(2021)編著,「中学校 技術・家庭科 家庭分野 資質・能力を育む学習指導と評価の工夫」. 東洋館出版社
- ・ 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター(2020),「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭」